

早稲田摂陵中学校・高等学校
令和四年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校長

【校訓】 自律・質実・責任

【めざす学校像】 人格の完成を目指し、「地域社会・国際社会に貢献する」世界市民を育成する学校とする

近畿及び周辺の地域から革新的な知識を生み出せるポテンシャルをもった生徒が集まり、その一人ひとりが夢を実現するため互いに切磋琢磨し、地域社会・国際社会に貢献できるグローバル人材となるべく早稲田大学をはじめとする多様な分野において日本をけん引する大学に進学する学校

【教育の目標】 1. 社会環境、国際情勢、科学技術の急激な変化の時代を生き抜く「たくましい知性」を備える（＝質実）
2. 他者を尊重し、多様性を認め、対話を通じて共有価値を創造できる「しなやかな感性」を磨く（＝自律）
3. 答え(モデル)のない課題に挑む志マインドを持ち、解決に向けて実践し、社会に貢献できる人材を育てる（＝責任）

【組織面】 1. 学校全体および校務分掌、学年等各部署でのミッションを共有し、目的に向かってチームで取り組む
2. 理念の共有による変化に強い体質の組織を形成する
3. シニア講師を含め、各教員および職員が備える「強み」を十分に発揮できる職場環境をマネジメントする
4. 研修、発表、実践による教員のマインドセットとスキルおよびコンピテンシーの向上

【経営面】 1. ICTの活用および会議や慣習的ルーティンワークの合理化による働き方改革の実施
2. 教育目標および重点教育事業達成のための、目的別採用と人事制度の実施

2 中期的目標

1. EdTechの推進加速による「20世紀型学習」から学習者主体の「21世紀型学習」への転換

(1) 一人一台タブレットの整備、Wi-Fi環境の整備

ア. 新規に設置した教育企画部を中心に、GIGAスクール構想に基づいた新しい形の教育活動を発展させる。

イ. 校内のソフト面と同時にハード面（電子黒板やWi-Fi環境）の両面でICT教育の活用推進を行う。

(2) manaba導入による早稲田摂陵LMSの整備と活用による主体的学習

ア. manabaやgoogle classroomなどのLMSを活用し、生徒が自主的かつ計画的に学習を進めていくことができる教育環境を構築する。

イ. 生徒が継続的にリフレクションを行い、教員が適切にフィードバックできるシステムを整える。

(3) 教育企画部を主導とするEdTech活用スキルのアップを目的とした教員研修の整備

(4) ICT活用によるITリテラシーの向上とSTEAM教育

ア. 非認知能力を育むプログラムを実施し、活用する。

イ. 早稲田ファミリーの一員として、愛校心をもってアクティブな学校生活を送ることができるように、文化的・芸術的活動を推進し、人間力を高める教育活動を展開する。

2. Wコースの設置による新たな教育活動の展開

(1) 早大系属推薦枠の充足と入学試験における学力上位層の確保

(2) 探究活動と専門演習（ラボ）の設置で、「大学での学び」に確実に繋げる高大接続教育の実施

ア. 学力の3要素である「主体的に学習に取り組む態度」を養うために、総合的な探究の時間を充実させる。

イ. 高等学校での学びを超え、大学との共同研究などを通して探究力を習得させる。

(3) 大学および社会で必要とされる思考力・判断力・表現力の獲得

ア. 観点別評価の導入で、学習指導の目標と学習評価を一体化させ、適切なフィードバックで生徒一人ひとりのゴールを明確化する。

(4) 破壊的イノベーションの専攻事例となりうる早稲田大阪モデルの構築へ向けた試金石

3. 進学実績の向上

(1) 早稲田大学推薦枠39名の充足と、旧帝大をはじめとする国公立大学への現役合格目標11名。国公立大、早稲田大学への進学者数目標50名

ア. 夏期・冬期の講習会の一層の充実と、外部模試の活用でさらなる学力向上を図る。

イ. きめ細やかな進路指導を行い、生徒一人ひとりの自己実現に向けた具体的な支援を行う。

(2) 難関私立大学（MARCHや関関同立大など）への現役合格者数目標100名

ア. 早期から大学進学についての情報を生徒・保護者に共有し、三位一体となって大学進学につなげる。

(3) 学力型選抜に向けたアダプティブラーニング、総合型選抜に向けた探究の時間の活用と高大接続教育の実施

ア. 外部講師やOB/OGを活用し、進学意識を高めて生徒のモチベーション維持と向上を図る。

イ. 人生100年時代を生きる行動戦略を考え、自らの未来をつくるための「生き方」を考えさせる。

4. 地域・国際交流・国際理解教育の推進

(1) 協定校とのオンラインを含めた交流促進と提携の拡充

ア. ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた海外研修の再定義と再構築を目指す。

イ. オンラインを通じた海外協定校との文化交流の促進を図る。

(2) 多様な短期および長期留学制度、留学生受け入れ環境の整備

ア. 付設寮を活用し、各国から留学生を積極的に受け入れる。

- (3) 国際社会の基本情報と21世紀のグローバル社会に対応する人材育成のためのコンピテンシーの育成
- (4) 彩都地域を舞台に、地域交流と地域的諸課題の設定と解決による社会貢献プロジェクトの実施
 - ア. 近隣中学校への出前授業などを積極的に受け入れ、「中高連携」を模索する。
 - イ. 吹奏楽コースを中心に、地域への芸術文化の発展に寄与する。
 - ウ. 教育活動について、SNSを含めたあらゆる機会・方法を活用して、ステークホルダーに積極的に発信する。

5. 豊かな人間関係を築くための主体的生徒活動の充実

- (1) 主体的な生徒活動の推進と早稲田ファミリーとしての母校愛を育む
- (2) 多くの芸術や文化に触れ、他者との共感を通して豊かな感性を育む
- (3) 規範意識やマナーの向上

6. 組織・人材の強化

- (1) 理念の共有による変化に強い体質の組織を形成する。学校全体および校務分掌、学年等各部署でのミッションを共有し、目的に向かってチームで取り組む。
- (2) 研修、発表、実践による教員のマインドセットとスキルおよびコンピテンシーの向上
 - ア. オンラインも含めた教員研修を充実させるのと同時に、教員の研修・研究時間を確保する。
 - イ. 働き方改革や健康管理の観点から、校内行事や分掌業務、会議時間、部活指導時間等の見直しを行い、教職員の長時間勤務を縮減する。
- (3) 教育目標および重点教育事業達成のための、目的別採用と人事制度の実施
- (4) 様々な入試方式、および個人の適性に応じた進路指導実践ができる教員へのスキル向上

3 学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見

自己評価アンケート結果と分析(令和4年度)	学校協議会からの意見(令和4年度)
<p>1 生徒アンケートについて</p> <p>【中学】学校生活の充実度に関する質問には、肯定的回答が90%を超えており、高校と比べても最も高い数字であった。また、タブレットが自宅学習の有効的なツールとなっていると答えた割合も高い。一方で、行事やクラブ活動の積極的参加、悩みを抱えたときのカウンセリング体制、ICT機器の活用について、進路指導や進路情報の充実度については20%近くが否定的回答であった。</p> <p>【高校1年】</p> <p>タブレットが授業で有効活用されていることへの肯定的回答が3学年で最も高く、総合的な探究の時間に対する肯定的意見も高い。自身の学力向上の実感度が3学年で最も低いが、昨年と同様に高校1年生が最も低いこともあり、大学受験に対する意識がまだ低いことが関係していると思われる。</p> <p>【高校2年】</p> <p>タブレットが自宅学習のツールになっている肯定的回答が3学年で最も高い。授業や学校生活でのICT機器の活用、また悩みを抱えたときのカウンセリング体制には否定的意見が目立つ。カウンセリング体制の周知が必要であると言える。</p> <p>【高校3年】</p> <p>高校3学年の中で、学校生活への満足度の高さがうかがえる。進路に関する指導や情報提供についても肯定的意見が目立った。早稲田大学との連携行事の満足度は、やや否定的意見が目立った。</p> <p>2 保護者アンケートについて</p> <p>個人情報保護についての取り組みや、懇談会の実施回数や学習状況把握についての適切な情報提供に対する肯定的意見は高かった。一方、異文化教育に対する取り組みに対する肯定的意見が少ないことや、タブレットが有効的な学習ツールとして認知されていないことには課題が残る。</p> <p>3 教員アンケートについて</p> <p>課題として、スキルアップのための研修機会の充実が挙げられる。また、教員間の意見交換や情報共有する機会を増やし、教育内容の精査も必要であるという意見があった</p>	<p>本年度の「21世紀型学習」への転換の中で、去年に引き続き、全学年でiPadの使用をしていますが、今年度は生徒も先生方も使用されていると感じておりました。評価指標でも80%が肯定的回答になったのも、理解できます。Edテクノロジーは、これから大学へ進学した後も必須のものですので、今からきちんと身につけていけるよう、大いに期待しております。</p> <p>本年度、進学実績の向上が目に見える形で実績として出たことは、評価に値すると思います。生徒たちの学力だけでなく、先生方の個人個人に寄り添った進路指導の成果だと思えます。早稲田摂陵の強みである、先生と生徒の良い関係が、ここに現れていると感じます。</p> <p>そして、本年度は、SNSを使った広報活動が積極的に行われていたように思います。吹奏楽コース、Wコースなど、コースごとのページであったり、卒業生の声を載せていたり、受験希望者が見るだけでなく、在校生も見て楽しめるものであったと思います。</p> <p>ウィズコロナ、アフターコロナを経て、海外研修なども再開でき、今後、「国際人」を育てるためのフィールドとしても、大いに期待しております。</p> <p>本年度は教職員の移動も多かったように思います。そのような中、新校長を中心とした学校経営体制が確立されるまでは時間を要することと思います。高い理想と改善活動に取り組み続け着実に前進していくことを願っています。</p> <p>進学実績の向上について、学年・コースに応じた計画的な講習や演習授業、充実したきめ細やかな進路指導が令和四年度大学進学実績の向上に奏功する結果であると思われ、非常に有り難く、深謝致します。また早稲田ファミリーの一員として、早稲田大学推薦枠の充足が喫緊の課題であると共に、国公立及び有名私立大学への合格者数アップが今後の本校の知名度、学校評価を高める重要なファクターであると思われしますので、今後の更なるご指導に期待致します。</p> <p>全学年でのタブレット整備やWi-Fi環境の整備を行い、またICT機器を活用した学習が学力向上に繋がっており、確実に進学実績を伸ばしていることは実に素晴らしく、引き続き学習者主体の「21世紀型学習」への転換を進めて欲しい</p>

4 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	本年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. EdTechの推進加速による「20世紀型学習」から学習者主体の「21世紀型学習」への転換	<p>(1) 一人一台タブレット整備の継続と、LMS (manaba、Google Classroom) の活用による主体的学習者の養成</p> <p>(2) EdTechを推進し、非認知能力を高め、個別最適化の教育で学力を高める。</p> <p>(3) STEAM教育の推進と情報リテラシーの向上、ならびにSNS等の適切な利用についての理解</p>	<p>(1) 全学年で引き続き一人一台タブレットの整備を行い、ICT機器活用の機会を増やす。また、多種多様なICT機器、コンテンツ導入を積極的に行う。</p> <p>(2) 本校LMS (manaba) など、さまざまなアプリケーションの活用と、教室におけるICT機器の活用でEdTechの推進をはかる。</p> <p>(3) 情報リテラシーに関する特別講座を行い、理解を深める。またSNSの適切な利用について注意喚起を促す。</p>	<p>(1) 学校評価アンケート「ICT機器が学習に役立つツールになっているか」の肯定的回答が80%以上</p> <p>(2) 非認知分野のテストAiGrowの実践と、京都大学と実践研究(学習ログの活用)の実施</p> <p>(3) 学校評価アンケート(教員)「ICT機器を授業内容の工夫に取り組んでいる」の肯定的回答が80%以上</p>	<p>(1) iPadやApple TV、プロジェクターを活用することで板書の削減等、授業をより円滑に実施できている。Google Classroomをベースに、Google Formsを利用した授業や学校行事、学校生活に関するアンケートを実施するなどGoogle Workspaceコンテンツの利用が定着している。アンケート結果86% (○)</p> <p>(2) BookRollを通じた教材配信やノートアプリGoodNotes5、デジタル教科書の導入により、iPadの活用がより一層促進した。各教科において学習支援アプリを活用した授業が増加し、ICT機器が必須の授業形態となっている。(○)</p> <p>(3) 1年生はiPadに関するガイダンスを実施し、「早稲田摂陵高等学校端末利用規約」を用いて学内外における情報リテラシーに関する講習を実施した。他の学年においても日常的にHRや学年集会等でSNSの適切な利用に関する指導を行った。アンケート結果91% (○)</p>
2. Wコースの設置による新たな教育活動の展開	<p>(1) 探究活動と専門演習(ラボ)の設置で、「大学での学び」に確実に繋げる高大接続教育の実施</p> <p>(2) Wコース専門演習の充実</p> <p>(3) 企業連携キャリア教育の実施</p>	<p>(1) 大学での学びの関心を高める教育活動と主体的学習者としての姿勢を身につけさせるため、早稲田大学と共同で授業や講座を展開する。Wコースにおいては、総合的な探究の時間を中心に、「専門演習」を行う。</p> <p>(2) 独自カリキュラムである専門演習や論文作成において、学年を超えた共同研究を行い、チームで自主的、自発的な学びの機会を提供する。</p> <p>(3) 早稲田大学と連携を強化し、「こうはいナビ」を定期的に実施する。社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するために考える機会を提供する。また、企業や大阪早稲田倶楽部と連携し、社会人講師による講演会・交流会を開催して生徒の職業観を涵養する。</p>	<p>(1) 学校評価アンケート「早稲田大学との連携教育について」に関する項目の肯定的回答が80%以上</p> <p>(2) Wコースの専門演習の成果発表と、実験および研究発表</p> <p>(3) 外部講師による講演会の実施。学校評価アンケートの「将来のビジョンについての教育機会が提供されているか」の肯定的回答が80%以上</p>	<p>(1) 興味関心のある分野を課題に設定し、情報収集・整理分析手法を学び、探究レポートの作成を通して探究プロセスを学習することができた。質的研究に関する情報収集技法を学ぶために、関西大学を訪問し、大学生及び大学院生によるワークショップに参加した。また、早稲田大学教授・学生による「VRを活用した授業」を実施し、新たな学びの刺激となった。アンケート結果77% (△)</p> <p>(2) 興味関心のある分野に応じて、専門演習を選択し、受講した。研究テーマを決め、卒業論文執筆に取り掛かった。令和5年度の早撮祭において、研究発表を実施する予定である。(○)</p> <p>(3) 各早稲田大学連携行事(「知に触れる」「ICCアウトリーチプログラム」「WAVOC」)、「未来設計プログラム」、「シゴトのチカラ」を実施し、各学部学科の学問領域に触れたり、社会人とのワークショップに参加したりすることで、大学進学にとどまらず、今後の人生のキャリア形成の一助とした。アンケート結果76% (△)</p>

<p>3. 進学実績の向上</p>	<p>(1) 難関大学への進学意識の育成</p> <p>(2) 基礎学力の早期定着と、書く力・考える力・伝える力の育成</p> <p>(3) 自己の将来像に連なる進路意識を醸成と、一人ひとりの進路希望の実現</p>	<p>(1) 生徒が自ら適切な進路選択し、大学への志望力を高めるため、コースごとの進路指導体制を強化する。模擬試験の振り返り・結果分析を整理・充実させ、より強い進路目標の設定の手助けを行う。</p> <p>(2) 学年・コースで計画的に講習を設置し、所属コースに応じた講習や演習授業を展開する。総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜に応じた進路指導を充実させる。</p> <p>(3) 大学出張講義や外部ガイダンスなどを多く提供し、将来について考えさせる機会を与える。学部・学科選択を超えて、「学問」に触れる機会を多く設定し、特に高校1、2年生において、学問の関心を高める進路イベントを充実させる。</p>	<p>(1) 大学進学実績の向上。国公立大学・早稲田大学合格者数50名以上 イ. 難関私立大学合格者数100名以上</p> <p>(2) 年2回の授業アンケート実施と教員研修の実施。学校評価アンケート「学力が向上しているかの実感」についての肯定的回答が80%以上</p> <p>(3) 学校評価アンケート「進路説明会や資料を自分自身の進路選択の参考になっているか」の肯定的回答が80%以上</p>	<p>(1) 4月より、コースごとの進路ガイダンスを実施。コースごとにターゲットを定めた進路指導で国公立大学志望が大幅に増加。合格実績は、早稲田大学に31名、国公立大学に19名が合格し、国公立大学・早稲田大学の合格者数が50名となった。また、早稲田大学を除く難関私立大学(MARCH・関関同立など)の合格者数も100名を超えた。(○)</p> <p>(2) 学校評価アンケート「学力が向上しているかの実感」の肯定的回答が、高校1年生のみ80%をやや下回ったものの、高校全体としては約85%の生徒が肯定的回答をしている。(○)</p> <p>(3) 生徒・保護者に対する進路指導ガイダンスを複数回実施した。また、オンラインを通じて情報配信を頻繁に行った。学校評価アンケート「進路説明会や資料を自分自身の進路選択の参考にしているか」の生徒、保護者の肯定的回答はともに89%となった。(○)</p>
<p>4. 地域・国際交流 ・国際理解教育の推進</p>	<p>(1) 海外研修の実施とオンラインを含めた海外との交流促進と提携の拡充</p> <p>(2) 国際協力等、国際社会へ関わる姿勢について考え、国際理解を深める。</p> <p>(3) 茨木市、箕面市、彩都地域との交流と地域への貢献</p> <p>(4) 学校教育活動の外部への発信強化</p>	<p>(1) ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、スタディーツアーの実施やオンラインでの国際交流を通して、知見を広げる。</p> <p>(2) 高校生として実施可能な国際協力について考え、行動できる教育機会を提供し、留学生を積極的に受け入れる。</p> <p>(3) 茨木市、箕面市、彩都地区との交流・連携強化を進める。本校施設の貸し出しや、出張授業、部活動交流など地域との連携を深め、本校生徒による母校訪問を行ない、地元中学校との中高連携を強化する。</p> <p>(4) 受験生・在校生・保護者・卒業生に向けて、SNSや公式ホームページなどで現在の教育活動を積極的にPRする。</p>	<p>(1) オンラインによる国際交流の実施</p> <p>(2) 学校評価アンケート「国際理解についての教育の提供」の肯定的回答が80%以上</p> <p>(3) 地域イベントの開催5回以上</p> <p>(4) SNSの更新100回以上</p>	<p>(1) ①台湾明道中学・帝京マレーシア日本語学院の生徒とのオンライン交流を実施し、外国の文化や歴史を学ぶことができた。 ②令和4年度国費高校生留学促進事業を活用し、7月と2月にフィリピン・スタディーツアーを実施した。ダバオの孤児院、現地の大学、コーヒー農園等を訪問し、フィリピンの生活や文化、歴史を体感することができた。 ③WWL コンソーシアム構築支援事業に連携校として参加し、拠点校主催のオンライン会議に参加した。(○)</p> <p>(2) フィリピンで孤児院(HOUSE OF JOY)を運営されている方の講演会やJICA青年海外協力隊としてホンジュラス共和国で小学校教諭として活動された方による講演を実施し、異文化理解・国際協力の在り方について学習することができた。アンケート結果84%(○)</p> <p>(3) 近隣の公立中学校において、SDGsやSTEAM教育をテーマに出前授業を2回実施した。また、学内で彩都音楽祭や「サッカークリニック」を実施し、近隣の学校や地域住民との交流を深めることができた。(○)</p> <p>(4) 学校ホームページ等を通して、日々の学校における教育活動の情報を発信することで、広報活動の一役を担うことができた。(○)</p>

<p>5. 豊かな人間関係を築くための主体的生徒活動の充実</p>	<p>(1) 主体的な生徒活動の推進と早稲田ファミリーとしての母校愛を育む</p> <p>(2) 多くの芸術や文化に触れ、他者との共感を通して豊かな感性を育む</p> <p>(3) 規範意識やマナーの向上</p>	<p>(1) 委員会制度を有機的に機能させ、生徒が主体的に学校活動やクラブ活動に参画できる自治力を強化する。</p> <p>(2) 学校行事に関して、引き続き教職員と生徒が一体 となって運営し、新たな伝統創生を進め、生徒活動をさらに活性化する。</p> <p>(3) 主権者としての社会参加意識と人権意識を高め、生活マナーの向上 ・ いじめ防止や人権教育の推進のための機会を設ける。</p>	<p>(1) 学校評価アンケート「行事やクラブ活動への参加」に関する肯定的回答が 80%以上</p> <p>(2) 芸術鑑賞など文化的行事の充実</p> <p>(3) 学校評価アンケート「人権教育・プライバシーの保護」に関する項目の肯定的回答が 80%以上</p>	<p>(1) (1)学習・部活動への積極参加に加え、生徒会・委員会の活性化に努めた。各委員会がテーマを設定し、生徒一人ひとりが物事に関与し続けることが当たり前となるような基準の構築を目指した。アンケート結果 87% (○)</p> <p>(2) やることがない生徒を減らし、1つひとつの事柄に興味関心を持つことで、目的意識や意味や価値付けができるように導いた。社会での立ち位置や意識、関わり方について思考していくための、実践を重ねた。(○)</p> <p>(3) 日々の生活の中での指導・言及、定期的な研修会や講演会を開催し、生徒・教職員への呼び掛け等を継続的におこなった。また、独自にアンケートを展開し、現状把握と改善に努めた。アンケート結果 90% (○)</p>
<p>6. 組織・人材の強化</p>	<p>(1) 理念の共有による変化に強い体質の組織を形成する。学校全体および校務分掌、学年等各部署でのミッションを共有し、目的に向かってチームで取り組む</p> <p>(2) 職場環境の改善</p> <p>(3) 教育目標および重点教育事業達成のための、目的別採用と人事制度の実施</p>	<p>(1) それぞれの校務分掌における日常的業務を見直す。学校目標達成のための役割を明確にし、分掌長・学年主任が常にスクールビジョンを意識し、個々のマネジメント力を高め、各部署における共同体制を構築する。</p> <p>(2) あらゆるハラスメントを許さず、教職員が安心して自己の能力を活かし、誇りをもって働ける風土をつくる。分掌業務や会議時間、部活指導時間などを見直し、長時間勤務の是正を図る。また、教員の専門的知識、授業スキルを研鑽する機会について再検討する。</p> <p>(3) 経営分析、改善策の提案等が可能な、総合的デザイン力と経営管理能力を備えた人材の育成</p>	<p>(1) 学校評価アンケート（教員）の「問題解決への取り組み指標」項目の肯定的回答が 80%以上</p> <p>(2) 働き方改革や職場環境に関するプロジェクトチームを結成する。学校評価アンケートの「働きやすさ」項目の肯定的意見が 80%以上</p> <p>(3) 教育目標達成のための戦略的な人材採用</p>	<p>(1) 学校評価アンケート（教員）の「問題解決への取り組み指標」の肯定的回答が 60%にとどまった。校務分掌が目標を共有し、新たな価値創造に対してチームで取り組むことが課題である。働き方を見直し、部長・主任へのチームマネジメントに対する意識を高めていくことが必要である。(△)</p> <p>(2) 働き方改革の一環で 2022 年 4 月より配付文書のペーパーレス化を実施。校内すべての配付文書をオンライン化した。また学園全体で働き方改革 PJ を発足し、学園全体で現状把握と業務整理に努め、週休 2 日制についての議論を本格化させた。学園独自で制定した「キャリアステージ制度」については、事実上頓挫したが、今後も研修制度を充実し、教育の質の向上を図る。(○)</p> <p>(3) 私学経営研修に管理職 1 名が参加した。また、管理職 3 名が OODA 研修を受講し、学校管理運営全体を把握するよう努めた。(○)</p>